

## 【キーワード】

〔施設種別〕  高齢者施設  障がい者施設  子ども施設  住宅 ( )  
 〔運営主体〕  市区町村  法人  NPO  個人 〔補助金〕  内閣府  国土交通省  厚生労働省 ( )  
 〔建物形式〕  1 棟単体型  複数棟集合型  団地型 〔建物状況〕  新築  増築  改修  一部改修  既存  
 〔対象者〕  高齢者  障がい者  子ども  ファミリー  多世代  留学生



写真 1. せんとぴゅあⅠ外観写真（東川町ウェブサイトより引用）

旧東川小学校を改修してせんとぴゅあⅠ、そして旧グラウンド横に新築のせんとぴゅあⅡが並ぶ。東川町が「写真の町」としてまちづくりを進めてきたことを背景に、国際交流や文化芸術活動など人々の交流の拠点として計画された。地域の人の憩いの場、学びの場、また留学生や研修性のための施設として、多くの人々から親しまれている。

## ■施設概要

所在地：北海道上川郡東川町北町1丁目1番1号、2号

施設種別：せんとぴゅあⅠ（以下Ⅰ）

日本語学校

宿泊施設

ギャラリー

コミュニティカフェ

コミュニティホール

せんとぴゅあⅡ（以下Ⅱ）

図書スペース

作品展示スペース

大雪山アーカイブス

セミナー室

学習室

体験室

多目的室

ショップ（町の工芸品を中心に販売）

運営主体：東川町

設計：小篠隆生

敷地面積：26,850 m<sup>2</sup>

建築面積：3,024.77 m<sup>2</sup>（Ⅰ）

延床面積：4,220.65 m<sup>2</sup>（Ⅰ）

構造：鉄筋コンクリート造、一部木造、鉄骨造（Ⅰ）

鉄骨造（Ⅱ）

運営開始：2016年10月（Ⅰ）

2018年7月（Ⅱ）



写真 2. 立地周辺（google map より）

東川市街地の中心に位置する。東川中学校がすぐ北に、東川高校も近く、昔から町の教育拠点であった。町役場などの公共施設もここに集中する。



写真 3. せんとぴゅあⅡの外観

写真奥にある道道1160号線と、手前にあるせんとぴゅあⅠを結ぶようにせんとぴゅあⅡが建てられた。

参考文献

1) 東川町ウェブサイト <https://town.higashikawa.hokkaido.jp/arts-exchange-center/>

参照 2020年5月25日

2) 新建築平成29年4月号114～123頁

参照 2020年5月25日

■運営概要

旧東川小学校は東川市街の中心地にあり、1898年に開校してから3度の建て替えを行いながら約120年間に渡り、東川町の中心にあり続けた。小学校の移転・新築は、中心市街地にとってみれば大きな問題で、機能の拡散による中心市街地の衰退が危ぶまれた。

そこで、東川町はこの旧小学校を活用し、町の文化芸術活動の拠点となる施設をつくることで、この問題と向き合いながら、地域の文化芸術の発展を目指した。

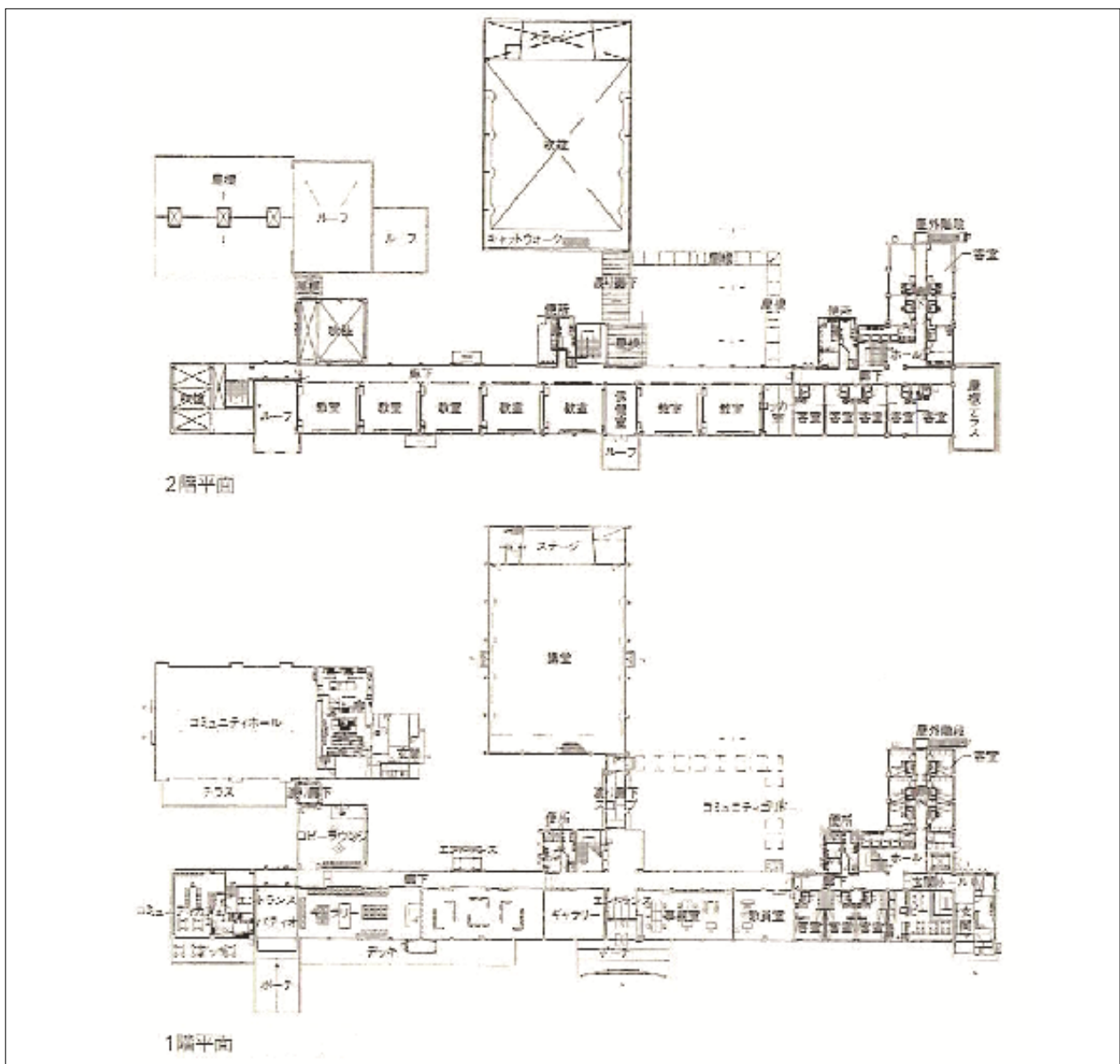


図1. せんとびゅあⅠ（校舎改修）平面図（新建築2017年4月号より）

鉄筋コンクリート造2階建ての典型的な片廊下型校舎である。1階は機能に応じた改修を多く行うが、2階は教室をそのまま残している。2018年にできた新築のせんとびゅあⅡへは、1階コミュニティカフェ横のポーチを通じてつながる。

## 廃校舎をまちの文化・芸術の拠点に

「せんとびゅあ」は町民公募の中から選ばれた名前で、セントラル（町の中心、文化の中心のイメージ）とピュア（純粋な、地下水、自然なというイメージ）を由来に名付けられた。

2016年10月に運営を開始したせんとびゅあⅠでは、旧小学校が留学生のための日本語学校、宿泊施設、ギャラリー、コミュニティカフェ、講堂へ転用された。

東川町は1985年に「写真文化首都」宣言をし、「写真甲子園」や「高校生国際交流写真フェスティバル」などのイベント開催や文化芸術を志す人の支援を行っている。「写真甲子園」では、予選を勝ち抜いた全国の高校写真部のチームが東川町に集まり、一週間かけて作品制作を行う。宿泊施設は、東川を訪れる人々、高校生国際交流写真フェスティバルの参加者や日本語学校を利用する留学生の利用等を想定しているほか、非常時の避難所としての機能を有している。

また、ギャラリーでは、地元にはゆかりのある芸術家の常設展を中心に、子どもたちや地域住民が文化芸術に触れながら生活し、それを通じて留学生や高齢者など多様な人々との交流が生まれるようにという願いが込められている。

### ■改修のプロセス

もともと旧校舎の屋根は木造の小屋組みであったが、雨漏り問題や断熱への配慮からフラットルーフへ変更された。1階のギャラリーや事務室は壁を取り壊して2つの教室を繋げており、同様に廊下と教室を隔てる壁も必要に応じて撤去された。また、コミュニティカフェとラウンジ上階の床を取り払って吹き抜けとすることで、典型的な片廊下型の校舎ならではの様な空間構成にインパクトと開放感を与えた。

一方で、2階の日本語学校の教室は、旧小学校の教室風景を継承するため、できる限り手を加えていない。そのうちの一つを「思い出の教室」と名付け、実際に教室として使用されていた時のままの姿で保存されている。



写真4. ギャラリー

1階廊下では東川で活動している芸術家の作品が展示される。校舎の直線廊下の面影を残しつつ、教室を隔てる壁を部分的に取り壊されガラス張りにし、学校を感じさせないギャラリー空間を演出している。



写真5. ラウンジ

改修によって2階の床を取り払ったため、柱梁のみ残る。蔭ストープや旭川家具が置かれ、球体の照明が空間をやわらかく照らす。



写真6. 教室

校舎2階の教室。改修せず、日本語学校の教室として使用している。研修や会議で使用することも可能。



## 参考文献

3) 東川町公式観光案内ウェブサイト「ようこそ東川」

<http://www.welcome-higashikawa.jp>/<http://www.welcome-higashikawa.jp>

参照 2020年5月25日



写真7. 東川家具の展示

地元の木材を使用した椅子。東川家具としてブランド化された家具は、見た目だけでなく木の質感や座り心地に重きを置かれ、洗練された美しさを感じさせる。

## 美術館でも博物館でも図書館でもない

旧校舎の西側、元グラウンドの隣に新築された「せんとびゅあⅡ」が2018年7月にオープンした。鉄骨造と木造の梁で構成された大空間の下には、開放的な図書スペースと東川家具をはじめとする展示スペースが混ざって配置されている。ここは美術館でも博物館でも図書館でもない、新しいスタイルの複合交流施設である。人々が自由に入出入りし、本を手にとれるような公共の図書スペース「ほんの森」を中心に、セミナー室やこどもコーナー、多目的室、体験室、学習室、ショップが取り囲む。大雪山関連の資料を展示する大雪山アーカイブスは、エントランスを入ってすぐの場所に設けられた。館内の家具は地元産家具を中心に配置されたもので、人体スケールにあわせた椅子や机、変わった形のベンチなど、訪れた人が自分の好きな居場所を選択して滞在できる。



写真8. せんとびゅあⅡの図書スペース

写真奥の開口付近には、東川の作家の作品が展示され、人通りが多い。手前側には、閲覧用の椅子や机が本棚に囲まれて置かれ、静かに自分の時間を過ごすことができる。